

磐田トライアスロンクラブ

1981年に磐田トライアスロンクラブがマラソン愛好家等に依り設立いたしました。

60年誌の時に歴史は掲載させて頂きましたが、10名から始まったクラブ員数も現在東京オリンピック2年前に成っても15名前後のクラブ員数しか居らず発展性が有りません。

2000年にはシドニーオリンピック大会では正式な競技種目として開催されました。

又・国内では2012年にはトライアスロン競技として国体の公開競技として、20016年には岩手県で正式競技種目として開催しテレビやマスコミ等に依り個人的には盛り上がりを見せており各トライアスロン競技大会では申し込み者が多く参加するのが困難な状況ですが我々の様なクラブには入部者が無く現在の会員も年齢を重ねるだけとなり若者達が入部しても長続きしません。何とか続けてもらおうと色々な行事を行ってまいりました。

スイム、バイク、ランの短い距離や長い距離のトライアスロンの練習会、スイム、ランやバイク、ラン等の2種目だけの練習会や各種目の単独の練習会と様々な行事を行って参りましたが回を重ねる事にクラブ員数が減少している状態です。

又、当トライアスロンクラブの主催2大会の内の一つフレンドリーデュアスロン大会はそれぞれ小学生、中高生、一般男女まで愛知県は元より関東、関西より多くの選手が参加され楽しんで頂きました大きな大会でしたが。2015年22回をもちまして参加選手から惜しまれつつ我々も涙を飲んで大会を終了しました。理由としましてはスズキテストコース内のバイクの競技中にある選手が単独の落車事故を起こしてしまい医師の指示に従い病院に救急搬送したところ救急車と共に2名の警察官が然も今まで来た事も無い刑事が付いてきました。根掘り葉掘り2時間近くも調査してスタッフも我々も、うんざりし次回の大会はやりたくない意見が多く、やむなく次回の大会を中止しました。

幸いにも事故者本人は軽傷でその日に車を運転して帰りました。この様に競技中に事故が起きて刑事が来て犯罪性だと調査すれば誰でも心配し驚きを感じます。(株)スズキ様には大変ご迷惑おかけしてし

まいりました。(きついお叱りを頂きました。)

現在では本年9月30日に開催される第26回サンライズイワタIN竜洋大会に安全に運営出来る様にスタッフ一同は頑張っています。この大会には日本各地より560名の参加者がいます。この大会には当然磐田トライアスロンクラブだけでは運営出来ませんので静岡トライアスロン協会の各クラブの審判員、ボランティアの皆様、ライフセイバーの皆様、磐田ボランティア講座の中学生、磐田農業高校水泳部、都市クリニックの先生及び看護師さん等のご協力を頂き安全な運営をして参加者には帰途に着いて頂きます。

この様に各種団体様のご協力により大きな大会が開催出来ますが、主と成る磐田トライアスロンクラブ員が少なく下準備する者の負担が年齢と共に大変に成って来ています。

静岡県トライアスロン協会も然り審判員もボランティアも26回大会も毎年同じ顔ぶれと成っていて将来を考えると大変不安を感じさせます。NPO法人磐田市体育協会の他のクラブはどうでしょうか？同じ様な悩みをお持ちでは無いでしょうか？それでもNPO法人磐田体育協会の為に頑張ります。

2020年の東京オリンピックに向けて日本のトップアスリートほどの種目でも10代20代前半の選手が活躍し我々に夢と感動を与えてくれていますね。

私自身羨ましくも思うし頼もしく感じます。磐田トライアスロンクラブも50名位の会員数を有した時代も有りましたがスイム、バイク、ランと3種目行う特殊な競技で3種目指導出来る指導者がなかなか見当たりません。その為にどうしても個人練習に魅力を感じクラブには入部してくれません。これからの課題は指導者の育成を考えて行きたいと思っています。今回は消極的な記事しか乗せる事が出来ませんでした。